

実践マップスキル研究会通信 Vol.12

令和元年5月発行

発行:実践マップスキル研究会

実践マップスキル研究会通信第12号をお届けします。川崎市で開催された第27回“マップスキル講座川崎大会（2018年8月24日実施）”に参加された先生方のご感想を掲載いたします。（順不同、敬称略）

地図の面白さに改めて気づかされる講座

南山大学附属小学校 教諭 林 幸寿

新学習指導要領により、小学校3年生から地図帳を使用することになります。このことを知ったときに大変うれしく思いました。本校では、2008年度の開校以来、3年生から地図帳を活用する指導をしており、その考え方が認められた思いがしたからです。しかし、その一方で、10年間の地図活用の実践で、どんな力を子どもたちにつけることができたのだろう、と自問自答しました。そして、2018年度、3年生を担当したことを機会に、今一度地図活用の意義を見つめ直したいと思い、この講座に参加することにしました。

アクティビティ①では、大西宏治先生から地形図の活用の仕方を学びました。古い地形図と新しい地形図の塗り分けから何がわかるか、実際に地形図を土地利用ごとに塗り分ける作業を行いました。これは、子どもが集中しやすい活動であり、地形図をよく見ることにもなります。また、塗る場所を分担すれば、グループの協力も生まれます。そして、何より使えると思ったことは、等高線を断面図に描きかえなくても、土地の高低をとらえられることです。3年生の社会科でぜひ取り入れたいと思いました。

アクティビティ②では、「地図技能を伸ばす地図・地球儀指導」を寺本潔先生から学びました。本校では、社会科の研究において寺本先生からご指導を受けており、5年生において出張授業をしていただいたこともあります。寺本先生は、日本各地の学校で多くの実践をしておられるだけあり、授業の様子が容易にイメージできる内容でした。特に、地図指導の定着に重要な時期について、生活科から社会科への移行の仕方が勉強になりました。2年生において45cm×15cmの画用紙に通学路を描く実践例では、なぜ、細長い長方形の画用紙がよいのか、どのように方位を学ぶことにつなげていくのかなど、実践と理論の両面において納得させられました。また、観光を題材に社会科指導を革新させるといふ寺本先生の思いに改めて刺激を受けるとともに、本校で力を入れている英語学習も関連させていきたいと思いました。

アクティビティ③では、岩本廣美先生の指導のもと、会場近くの商店街の100m区間で題材を見つけ、地図にまとめる活動をペアで行いました。今回は、地図化の2

つのパターンのうち、ライン法を実践しました。学習題材選びのポイントとして、「確実に数えられるもの」が指摘され、私たちは「道路のふた」を調べました。40分ほどの時間の中で道路上の「ふた」をチェックし、模造紙に色シールを貼ってその結果をまとめました。はじめ、単純に思えた作業でしたが、様々な形、大きさ、デザインのふたを見つけることができ、新たな疑問がいくつも湧いてきました。そして、頭が下がる思いがしたことは、今回のアクティビティのために岩本先生が2回下見をし、内容を検討されていたことでした。大人の活動でさえ、そのような準備をする姿勢から、校外学習における現地踏査や準備の大切さを改めて感じました。

今回の講座への参加を通して多くのことを学びましたが、それによって、私自身の地図を楽しむ気持ちが呼び覚まされたことが一番の成果でした。講師の先生方、本当にありがとうございました。

第27回 川崎大会 マップスキル講座に参加して

山梨県大月市立猿橋小学校 教諭 米山 香

念願叶って、この講座に参加できました。私が教材としての地図に魅力を感じ始めたのは十数年前。職場の研究会で、次山信男先生から社会科と生活科を指導していただいたことがきっかけです。職場の代表の先生が授業の中で児童と共に活用した地図を、研究会で振り返りながら見ていった際、歴史や産業の姿、人々の暮らしぶりと願い等が立ち現れたように感じました。その時の感動を自分も授業で子ども達に伝えたいと思っています。しかし実際は難しく、理想と現実の違いにがっかりするばかりです。そんな中、この講座でたくさんことを学びました。

大西宏治先生の講義では、ICTが地図学習を便利に且つ面白くするものであるということが分かりました。教師の効率を上げるだけでなく、綺麗でわかりやすい教材は児童の学びに繋がりがやすいと思います。今回のツールを紹介することにより、児童とその家族が地図に興味を持ち、会話や旅、防災への備え等、家族の生活に結びついていくことも十分あり得ることでしょう。地図がより親しみ深くなるに違いありません。

寺本潔先生の講義で、地図はどの教科でも何歳か

らでも使うことができるということを教えていただきました。低学年児童の作成した通学路の地図が印象的でした。小さな子どもでも、経験から自分の地図を心(頭)の中に持っているということが証明されていました。自分で描く時には主観的ですが、みんなの地図を教師がまとめることにより、内容の濃い学校区地図になります。自分のお気に入りのものが他の人のものとなつながら喜びや楽しさ、学校区が自分達みんなのものであるという意識など、心が動く学習だと思いました。

岩本廣美先生の講義は、商店街の100mの距離を、ペアで1つのテーマについて調べ、その結果を大きな地図に表現するというものでした。私達は「商店街ののぼり旗の土台を数える」という何気ないテーマでしたが、「なぜこんなにたくさんあるのか」「どんなところに多いのか」「どんな種類があるか」等、いくつかの発見と疑問が出てきました。実際の地図作りの効果を実感でき、シンプルな素材でも重要な情報を載せた立派な地図になることが分かりました。また、活動を仕組む側の留意点も教えていただきました。

一日を通し、地図の魅力が改めて強く感じました。地図に親しむことにより、土地や地域を大切に作る心が芽生え、地域からもっと広い世界へと目を向けていく子ども達の姿が想像できました。それが生涯にわたる学びになり、自分の人生を豊かにする可能性があると思えました。

現在私は外国語教育にも興味を持っており、この講座からヒントを得て、地図を使用した外国語教育の授業についても考えたいと思いました。地図を通して世界に目を向ける活動や、地域のことを調べて外国人を含めた様々な人に発信していく活動等を検討し、実践していきたいです。たくさんの学びを与えてくださったマップスキル講座に感謝しています。

マップスキル講座に参加して

練馬区立関中学校 主任教諭 平出 理恵子

実践マップスキル講座の案内は、しばしば目にしていて関心があった。なかなか参加するタイミングを得ない中で、やっと昨年(2022)の第26回東京大会に出席する機会を得た。地図技能の教え方や基本的な活用方法を再確認でき、教科教育の自信につなげることができた。そこで、今年も第27回川崎大会に参加させてもらうことにした。

大西宏治先生の「防災のための地図活用」の講義で、1959(昭和34)年9月に東海地方を直撃した伊勢湾台風は、洪水や高潮により多くの被害と犠牲者を出し、日本の災害史に残る水害であったが、台風より前に濃尾平野の地形分類図は既に作られ、低地部分は台風の浸水範囲と見事に一致していたので、「地図は悪夢を知っていた」一当時、地元の中日新聞ではこのように報じられたと

いう話は、とても印象的でした。ハザードマップを生徒に見せることの大切さを学んだ。また、地理院地図とハザードマップポータル、今昔マップの使い方は、すぐに実践できる内容である。

寺本潔先生の講義「地図技能を伸ばす地図」では、地図は生活科指導の中でも十分に効果を発揮できること、新学習指導要領では防災教育を重視していること、生活科⇒社会科⇒地理総合【高校必修】という枠組みのお話があり、改めて地図指導の重要性を認識した。指導の手順は、①方位、②地図記号、③縮尺、④土地利用が効果的であるという指摘があり、今後の授業に活かしたい。八方位体操は、とてもわかりやすく、楽しく学べる。方位は小学校の社会科で習うことになっているのだが、学習指導要領では、東西南北の四方位は3年生で、八方位は4年生までに習うことになっている。八方位とは、指導要領で明確に定めているわけではないのだが、四方位に北東・北西・南東・南西が加わって総称すると教えている。つまり南北のラインを基準に考えているのである。指導要領の解説書の中には、「南東を東南と間違ってしまうように指導しましょう。」と言い切っているものもある。八方位体操を身に付ければ、間違えることはない。指旅行、観光の6枚の花びら【自然・施設・イベント・生活文化・歴史・食べ物】は、生徒たちがわくわく学べる内容である。

岩本廣美先生の外へ出たワークショップは、現地調査を行い、持ち歩く白地図に結果を記入し、模造紙に地図を作成する手順でまとめた。地図作成の楽しさと難しさを体感することができた。これからは、身近な地域で調べたことを地図にまとめて表現する学習が重視されるので、貴重な体験となった。

3名の先生方の現場ですぐに活用できる地図指導のアイデアは、社会科が専門でない小学校の先生、地図指導に苦手意識がある先生、そして若い先生には、授業力向上の一助になる。

紹介して戴いた資料、一般財団法人地図情報センター編集発行『地図情報144 特集図法入門』、『世界の地図情報2018/19』は、教材研究に必要な内容がもりだくさんで、参考になった。地球は三次元だが、これを地図におとしたときには二次元のものに表示しななくてはならない。三次元のを平面上に描き直すときには必ず歪みが生じる。面積・角度・距離を同時に全て正しく表示することはできない。『地図情報144 特集図法入門』は、長短さまざまな地図図法があり、わかりにくくて難しい図法をわかりやすく紹介している。『世界の地図情報2018/19』は、197か国・2地域の国旗、国旗の由来の解説、巻末には「あれこれ世界ランキング」の掲載もあり、面白い。

講師の皆様、事務局の皆様には、このような素晴らしい研修の機会を与えてくださったことに感謝します。自身の授業力向上のためにも、次回のマップスキル講座に参加したいと思う。次回の会場がどこなのか今から楽しみにしている。